

研究会「ハドロン多体系のシミュレーション」開催される

ハドロン輸送研究グループ
岩本 昭

先端基礎研究センター・ハドロン輸送研究グループの主催で、上記研究会が1993年10月18日～20日の3日間、東海研究所ABC会議室で行われた。参加者総数70名のうち、20名が原研より、50名が外部よりの参加者で盛況のうちに全日程を予定通り行った。

この会議はハドロン輸送研究グループの発足を記念して広い範囲の研究者に呼びかけた結果、核反応をシミュレーションの手法で研究している日本の研究者の大半を結集することができたのではないかと考えている。参加者は非常に多彩で、核物理の理論・実験の研究者、核データの研究者、加速器工学関連の研究者、企業からの放射線防護関連の研究者、などが一堂に会して3日間有益な議論を行った。

会議は伊達センター長の挨拶、筆者の挨拶に続き24の講演が行われた。個々の内容を紹介するのは紙面の都合上不可能であるので下図に概要を示した。この図は横軸を核子当たりの入射エネルギー、縦軸は軽イオン反応・重イオン反応の別および測定する物理量の違いを表わし、その座標中に講演の内容を記入したものである。もとより厳密な分類ではない。シミュレーションの手法が核反応の様々な分野で注目されている様子が、分かっていただけだと思う。発表全体を通して、それぞれの分野で着実な進展がなされていること、しかし未解決の問題も数多くあることが明らかになりたいへん有益であった。また10人弱の企業の研究者が参加しており、彼等がかなり先の需要を見越して現在熱心に基礎研究に取り組んでいる姿は印象的であった。

Research Meeting on Simulation Study of Hadronic Many-Body System

Akira IWAMOTO
Research Group for Hadron Transport Theory

我々のグループも最近得られた新しい結果などを中心に、6件の発表を行った。研究のなかで開発したアニメーションによる発表のため、会場や懇親会の会場である阿漕クラブにまでパソコンを持ち込むなどして、主催者は大忙しであったが、参加者からは好評を博した。

会議期間を通して、参加者の多数の方々が我々のグループに対する期待や励しを寄せられた。その期待に答えるためにも、ハドロン輸送グループが日本におけるこの分野の核として活動し、成果を上げてゆく必要性を改めて感じた。

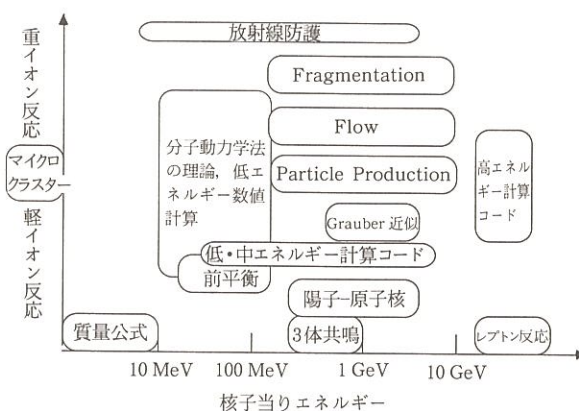


図1
研究会での発表講演の分野を、横軸を核子当りの入射エネルギー、縦軸を軽イオン反応から重イオン反応へと反応の複雑さを表わす量にとり、表したものの。